第○学年　　○○科学習指導案

以下の①から④を活用して学習指導案を作成すること　　　　（※この注意書きは確認後に削除してください。）

①小学校(中学校)学習指導要領解説 各教科 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文部科学省

②『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』 　　　　　　国立教育政策研究所

③学力向上推進５か年プラン・プロジェクトⅡ　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　沖縄県教育委員会

④「問い」が生まれる授業サポートガイド　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　沖縄県教育委員会

⑤生徒指導提要（改訂版）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和４年１２月　文部科学省

令和○年○○月○○日○校時

○年○組　○○名

授業者　○○　○○

**【年間指導計画の位置付け　　○○学年　　○○月計画　Ｐ（○○）】**

1 単元名

○教科によって題材名となる場合もある。教材名を記述してもよい。

２ 単元目標

○学習指導要領から、本単元での到達目標を明記する「何を学ばせたいのか」、「どのような資質・能力を育てたいのか」を具体的に記述する。

○教科によっては観点別に記述してよい。

３ 単元について

（１）教材観

○学習指導要領から本単元に係る目標や内容に即し、教材の持つ価値や活用する理由を述べ、児童生徒の変容の期待について

記述する。他の単元との関連や系統性も記述する。

○教材の分析や素材の魅力について記述する。

（２）児童（生徒）観

○既習事項の定着状況や事前テスト（全国学力・学習状況調査，沖縄県学力到達度調査，沖縄県学力定着状況調査，沖縄県児童生

徒質問紙調査等含む），評価やアンケートの分析した実態や。分析からの課題に現在どう取り組んでいるかを記述する。

○数値で表されるものは，できるだけ数値で記述する。

（３）指導観

○学習指導要領解説を読み込んだ上で、「教材観・児童観（生徒観）」を踏まえ、**単元全体**及び**本時の内容**をどのように指導していくかを具体的に記述する。

○児童（生徒）理解を基盤とした学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりが大切である。特に本単元で**生徒指導の4つのポイントを意識**する学習活動、指導について記述する。

【自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成】

（４）校内研修テーマとの関わり （２年研、**中堅研**については、個人のテーマとの関わりを記述する。）

○本単元の授業を通して、どのように校内研修のテーマに迫っていくか、児童生徒にどのような変容を期待するのかを具体的に記述する。

（５）単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ○学習指導要領の内容や『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』等を活用する。  ○単元目標との整合性を図る。「Ｂ：おおむね満足できる状況」の記述にする。 |  |  |

（６）指導と評価の計画（○時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時  間 | ◇ねらい　○学習活動 | 重点 | 記録 | 評価規準〈評価方法〉 |
|  | 「知識・技能」は「知」、「思考・判断・表現」は「思」、「主体的に学習に取り組む態度」は「態」 | 知 |  |  |
|  |  | 思 | 〇 | ○記録に残す評価の場合に「○」とする。 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

○『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』を参考に、各教科・領域に合わせて指導と評価の計画を作成する。（本時については太枠で囲む。）

○評価場面を精選し、単元のまとまりを意識した評価規準（指導に生かす評価〔学習状況の把握等〕・記録に残す評価〔全員を記録し評定にいかす評価〕にする。また「Ｂ：おおむね満足できる状況」の記述にする。

○記録の欄に「○」が付いてない授業においても、教師が児童生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かすことが重要である。

４ 本時の学習【○／●時間】

1. 本時の目標（本時のねらい）

○単元の目標を踏まえ，本時の具体的な目標を記述する。

○本時の学習を通して育成する資質や能力について明記し，目指す児童生徒像を示す。

1. 展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容・活動  （発問含む） | 予想される子供の姿及び教師の手立て  （個への具体的な働きかけも記述する） | 評価規準【観点】(方法） |
| 導  入  ○  分 | 【前時の学習の確認】前時の復習や本時で活用する事項の確認など  めあてや目標　身に付けさせたい力を踏まえた「めあて」の設定・提示　　　　　　　学習者にとって追究したい価値ある課題の設定 |  | 「『問い』が生まれる授業サポートガイド」p８～９を参考に，めあてを設定・提示する。  ・評価規準【観点】(方法)を記述する。 |
| 展  開  ○  分 |  | ・個への手立ても具体的に記述する。  【思考させる工夫】  発問の工夫・学習形態（一人，ペア，グループ，一斉）の工夫・言語活動の工夫等  「『問い』が生まれる授業サポートガイド」p８～９を参考に、まとめ、振り返りを行う。子どもによるまとめの例を記述する。 |
| 終末  ○分 | 「めあて」に正対した「まとめ」「ふり返り」をする。  【めあてがどれくらい達成できたか振り返らせる工夫】  【次時の予告】 | 【めあてがどれくらい達成できたか振り返り、学びを実感させる工夫】  【次時の予告】 |

1. 板書計画

○（２）の展開と重複する所が多い場合は、なくてもよい。

○板書計画の画像の挿入、または別紙での提示でもよい。